

大気海洋物質科学レポートのデータの説明

11/29の講義でお知らせした、レポートの計算に必要なデータの説明をします。このデータを使って計算を行い、レポートを提出してください。

データは、緯度-気圧の関数として与えられた、大気温度(K)です。
アメリカ気象局の40年間のデータから、年平均かつ経度平均して作ったものです。

データは、横方向に、気圧が高いほうから低い方へ、12層の気温データが並んでいます。気圧面は、

1000、925、850、700、600、500、400、300、250、
200、150、100 hPa という順にとつてあります。

また、縦方向には、緯度が北極から南極まで、2.5 度ずつ
南下した点での気温が並んでいます。(73緯度地点)

対流圏を、1000 hPa から 200 hPa と考えて、レポートの課題
の計算を行ってください。

11/29の授業に欠席していて、レポートの課題が分からない
人は、小池までご連絡ください。

締め切り: 1月10日(金)

提出先: 小池研究室(下記居室)前のポスト

あるいはe-mail、ファイル形式はワードか PDF

(件名に「大気物質科学レポート」という言葉を入れること)

質問: 小池真(理学部 1号館中央棟 8階 845 号室)

電話 (03) 5841-4595

e-mail koike@eps.s.u-tokyo.ac.jp